

編集後記

最近、「直美」という言葉をよく耳にするようになりました。これはご存じのように、「医学部卒業後に2年間の臨床研修を終え、保険診療をほとんど経験せず、直ぐに美容外科クリニックに就職する医師」を指すものです。その美容外科を標榜する医師数は右肩上がりが増加しています。令和4年の厚生労働省の医師・歯科医師・薬剤師統計をみると、病院勤務の美容外科医は17名（整形外科：14,575名）、一方診療所勤務は1,230名（整形外科：7,931名）となっております。診療所だけでみると、美容外科医は整形外科医の16%にも及びます。

美容外科が人気のある理由として、世間一般で美容や外見に対する関心が高まっていることがあげられるでしょう。多くの人が自分自身をより美しく見せたいと考え、手術や施術を受けることが一般的となり、その需要も増えてきました。これを背景として、制約も多く待遇の悪い保険医（勤務医）よりも、美容外科が若手医師の選択肢として魅力的に映るのも致し方ないかもしれません。ただその一方で様々な問題が生じているのも事実です。知識不足や経験不足による合併症や訴訟問題、営利を目的とした過剰な施術費請求、医師の都市部偏在の助長など、枚挙にいとまがありません。残念ながら医師不足をよく知るはずの地方大学であっても、将来の希望に美容外科をあげる学生も増えてきました。もちろん、美容外科を否定するわけでは

ありませんが、直美は、医師のキャリア形成に最も大切な20～30代の時期に、医師としての基礎を学ばず、十分な臨床経験を積まないことが大きな問題であると思います。

さて今回の特集は、坂本優子先生ご企画のAYA世代に焦点を当てた整形外科医療の特集です。AYA（adolescent and young adult）はその名の通り思春期から若年成人期を指しますが、学業や就職、結婚といった人生の大きな転機を迎える大切な時期にあります。この時期に病気を患うことは、肉体的な問題だけでなく、将来への不安や社会的な制約という心理的負担なども伴います。このため、従来の小児医療や成人医療とは異なる複雑さをもち、私たち整形外科医にとっても新たな視点や対応が必要となります。今回はAYA世代の診療でしばしば取り上げられる悪性骨軟部腫瘍のみならず、骨粗鬆症および関連疾患、リウマチ性疾患、スポーツ外傷・疲労骨折、脳性麻痺、股関節疾患など、多様な整形外科疾患について最新の知見と実践的な対応法が取り上げられています。

本特集を一読して、AYA世代の整形外科医療の重要性を改めて実感するとともに、私たちが果たすべき役割がいかに多岐にわたるかを考えさせられました。今回の内容が読者の皆様にとって有意義な内容となり、AYA世代の医療について新たな視点を提供できるものと期待しております。（石橋恭之）

「整形・災害外科」第68巻 第2号（2月号） 2025年2月1日発行（毎月1回1日発行） 定価 3,080 円（本体 2,800 円＋税 10%） 年間購読料金 定価 47,960 円（本体 43,600 円＋税 10%） 〔年間13冊（臨時増刊号、増大号を含む）の誌代〕 〔年間予約購読者に限り送料無料〕	発行所 金原出版株式会社 発行者 福村直樹 〒113-0034 東京都文京区湯島2-31-14 TEL 03 (3811) 7165〔編集室直通〕 TEL 03 (3811) 7184〔営業部直通〕 FAX 03 (3813) 0288 www.kanehara-shuppan.co.jp 振替口座 00130-1-191269 印刷所 三報社印刷株式会社 広告申込先 (株) 文京メディカル TEL 03(3817)8036
--	---

- ・本誌に掲載する著作物の複製権、翻訳・翻案権、上映権、譲渡権、公衆送信権（送信可能化権を含む）、貸与権、二次的著作物への利用に関する原著者の権利は、金原出版株式会社が保有します。
- ・**JCOPY** <出版者著作権管理機構 委託出版物>
本誌の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。複製される場合は、そのつど事前に、出版者著作権管理機構（電話 03-5244-5088、FAX 03-5244-5089、e-mail: info@jcopy.or.jp）の許諾を得てください。